

「A」次の文の（訳）の「 」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 いかにも瀬尾殿、まさなうも敵に後ろをば見するものかな。（平家物語）

（訳）なんと瀬尾殿、「 」も敵に背を見せるものだなあ。

- ① 思い切りよく ② 見苦しく ③ 憎らしく ④ 大げさに

1 「 」

2 伊成進み寄りて、弘光が手を取りて前ざまへ強く引きたるに、うつ伏しに転びぬ。あへなきことかぎりなし。
（古今著聞集）

（訳）伊成が進み寄って、弘光の手を取って前方に強く引いたところ、（弘光は）うつ伏せに転んでしまった。

- 「 」ことこの上もない。
① 弱々しい ② あっけない ③ もの足りない ④ 情けない

2 「 」

3 心づきなきことあらん折は、なかなかその由をも言ひてん。（徒然草）

（訳）「 」ことがあるようなときは、かえってそのことを言ってしまう方がよい。

- ① 好意を感じる ② 気になる ③ 気に入らない ④ めったにない

3 「 」

4 立ち聞き、かいまむ人のけはひして、いといみじくものつつまし。（更級日記）

（訳）（宮仕え先では個室にいても）立ち聞きをしたり、のぞき見をしたりする人の気配がして、とても

- 何かにつけて「 」。
① 気がひける ② 耐えがたい ③ 質素になる ④ 慎重になる

4 「 」

5 紅葉もまだし。花もみな失せにたり。枯れたる薄ばかりぞ見えつる。（蜻蛉日記）

（訳）紅葉も「 」。「花もみな散ってしまった。枯れた薄だけが見えた。

- ① まだ時期が早い ② ふさわしい ③ まだある ④ 待ち遠しい

5 「 」

6 女君は、わりなう苦しと思ひ臥したまへり。（落窪物語）

（訳）女君は、「 」つらいと思つて横になつていらつしやる。

- ① 理由もなく ② 本当に ③ 耐えがたく ④ なぜか

6 「 」

7 城陸奥守泰盛は、さうなき馬乗りなりけり。（徒然草）

（訳）秋田城介で陸奥守の安達泰盛は、「 」乗馬の名手であった。

- ① 邪心のない ② 動きに無駄のない ③ これまでにない ④ 並ぶものがない

7 「 」

8 小ききはあへなむ。（大鏡）

（訳）幼い子どもは（父親「菅原道真」の流刑地へ一緒に行つても）「 」。

- ① かまわないだろう ② 救えないだろう ③ 意味がないだろう ④ 頼りないだろう

8 「 」

「B」次の文の（訳）の「 」に入る語句を答えよ。

9 ある夜、野分はしたなう吹いて、紅葉みな吹き散らし、落葉すこぶる狼藉なり。（平家物語）

（訳）ある夜、台風が「 」吹いて、紅葉を全部吹き散らし、落葉がずいぶん散乱している。

9 「 」

10 今日はずちなし。右の大臣に任せ申す。（大鏡）

（訳）今日は「 」。 （閣議は）右大臣にお任せする。

10 「 」

11 殿上人、地下なるも、陣に立ち添ひて見るも、いとねたし。（枕草子）

（訳）殿上人や、地下である者も、陣に寄り添って（私たちを）見ているのも、とても「 」。

11 「 」

12 ほかにて酒などまあり、酔ひて、夜いたく更けて、ゆくりもなくものし給へり。（大和物語）

（訳）（泉の大将は）よそで酒などを召し上がり、酔って、夜がとも更けてから、（左大臣の邸に）「 」

12 「 」

「お越しになった。」

12 「 」

解答

【新三年生用】 古文単語380三訂版 P 2 1 2 ～ P 2 2 3

- 1 「②」
- 2 「②」
- 3 「③」
- 4 「①」
- 5 「①」
- 6 「③」
- 7 「④」
- 8 「①」
- 9 「はげしく」
- 10 「どうしようもない」
- 11 「しやくになわる」
- 12 「突然」